



パラレルワールドは要らない!!

ちいろば会理事長 富田 忠一

「障害福祉サービスにかかる予算はここ 10年で 2倍となり、2024年には 4兆2000億円にまで増加している」という歓迎すべき報道の一方、「障害者福祉サービスにおける不正受給は介護保険サービスと比して 10倍で 2020年から 2024年の 5年間で 80億円にものぼる」との報道があります。かつての小泉内閣が行った「社会福祉基礎構造改革」によって、様々な事業者が福祉業界に参入したことにより、近年には全体の 4割が営利団体となってしまいました。不正受給の多いサービスの種類では、就労支援事業、放課後デイサービス、グループホームで目立った不正受給があるとのこと。

また、不正受給がここまで多く発生する要因の背景には、あまりにも事業者が急増したことにより、行政が定期的に実施すべき実地指導や監査が追い付いていないということもあるようです。「バレる」可能性が少ないことがわかっていれば、利益追求が命題となる事業所で働く管理者が加算要件を充たしていても高い単価で請求したり、利用実績を多く偽装してしまう気持ちもわからなくありません。現に、不正受給が発覚した多くのケースは内部告発だということです。行政のチェックは殆ど機能していないのです。また、あまりにも複雑な報酬体系となった今日では、情報不足により悪意なく過大、過小請求してしまうリスクも少なからず存在します。不正請求の背景には、事業者の悪意や不注意だけでなく障害福祉サービスの報酬体系の矛盾はもちろんのこと、障害者を食い物にして金儲けを許すような風土をつくりだしてきたこの国の福祉政策そのものに問題があるのではないのでしょうか。

そもそも、かつての障害者運動の目的は、障害の有無にかかわらず、『ともに育ち』『ともに学び』『ともに働き』『ともに生きる』社会をめざすものであったはず。しかし、今日の障害福祉サービスの多くは、「障害児のための居場所」「障害児のための～」「障害者のための働く場」「重度障害者のための居場所」「障害者だけを数多く集めた暮らしの場」を提供するものでしかありません。このような福祉サービスが増えれば増えるほど、障害者は通常の社会の隣に平行して存在する「パラレルワールド(平行世界)」に分けられているのではないかと感じてなりません。その最大の原因は、わが国の障害福祉施策が「多様な人たちがともに生きる社会をめざす」ことではなく、「障害児・者のための行き場や居場所、障害者として生きる道」をつくり出すことに目的がすり替わっていることではないのでしょうか。このような制度の下では、障害児・者を集めて一儲けを画策する輩がモグラたたきのごとく現れることを止めることはできません。

「障害者の完全参加と平等」をめざし、命をかけて運動した先達に今一度、学び、障害をもつ人たちが障害をもたない人たちとともに地域社会において、必要な合理的配慮を受けて、自分らしく暮らし続けるために必要な支援とそのサービス提供の仕組みを今一度考え直す必要があるのではないのでしょうか。

はじ 恥でないものを恥とするとき、ほんとう はじ 本当の恥になる

ちいろば園主任 奥田陽子

「恥でないものを恥とするとき、本当の恥になる。」

先日、「ハンセン病差別に学ぶ」をテーマにした職員研修会に来て下さったハンセン病家族訴訟原告団副団長 黄光男さんが紹介された、同原告団 団長 林力さんの言葉です。

家族訴訟を担った原告の多くが匿名であったように、ハンセン病回復者の家族の多くは家族であるということをお明かせずに暮らしています。ハンセン病患者の子どもが小学校へ通学することをPTAや地域住民に反対されたり、親が療養所に入所した後真っ白になるまで家を消毒されたため近所にハンセン病だということがわかり、店で物を売ってくれない、共同井戸を使わせてもらえない等の差別を受けたり、家族もまた国のハンセン病患者に対する隔離政策に因る被害を受けてきたのです。家族であることを「隠す」ほかに選択肢を持たなかったのでしょうか。

私には自閉スペクトラム症の兄がいます。兄はとにかく言動が自立つので、避けられたり、からかわれたり、奇異な目で見られていることを家族の私も小さい頃から感じてきました。

私が小学1年生の時、大きな声で何か言いながら保健室に入る兄の姿を見た同級生がその言動を真似て、「あれ陽ちゃんのお兄ちゃんやろ?」と聞いてきました。自分の家族を笑われたことが悲しいと同時に、かつこ悪い、恥ずかしいと感じ、私は咄嗟に「ちゃうで、お兄ちゃんなんかおらんわ。」と嘘をつきました。それから同じようなことがある度、「お兄ちゃんなんかおらんわ。」と「隠す」ようになりました。

高校時代には、友人二人が私の忘れ物を電車に乗ってわざわざ家まで届けに来てくれたことがありました。クリーニング屋さんで道を尋ねて探してくれたといひます。それなのに私は友人らを家に上げることもせず、慌てて玄関を閉めて外で対応しました。兄の存在に劣等感を抱いていた私は、兄が友人らの前に出て来ておかしいことを言わないか、もし見られたらどう思われるのかを心配し、私自身が恥ずかしい想いをしたくなかったのです。翌日友人から「私らすぐに帰らされたなー」と言われましたが、謝るほかは何も返すことができませんでした。兄にも友人にも失礼なことをしたと、今でもずっと心にひっかかっています。

大人になってからは兄のことを積極的に隠しているつもりはありませんでした。しかし2～3年前近所の美容室に行った際、「こないだ怖かったんです。変な人が急にお店に入ってきて、おっきな声でトイレ貸してって言われて…」と美容師さんが笑いながら話し始めました。容姿や言動から、その人はきっと兄だと思いました。「怖い」だと「変だ」と言われることに意義を申し立て、「その人たぶん私の兄です。」と堂々と言えばいいのに、私の口から出た言葉は「へー、びっくりしますねー」と、相手に同調する言葉でした。兄への評価に腹立たしく悲しい想いをしているのに対して対立を諦めて何も言えず、対立どころか差別する側に立っている自分が情けなかったです。

ハンセン病回復者の家族の想いに触れるたび、兄の存在を隠してしまった自身を思い返し、その言動を恥ずかしく思います。知らず知らずのうちに、どちらが優れているのかという価値観で優劣や序列をつけ、「隠す」ことによって結果として兄の存在を否定してきた自分自身の差別心に気づかされます。隠すこと＝差別することによって自身の感じる劣等感から逃げ、自分はちがう存在だといった自尊心を得ようとしていたように思います。

黄光男さんが私たちに投げかけられた「ハンセン病回復者やその家族が、ハンセン病であることを子や孫に堂々と話すことができる社会になるだろうか。」という問いは、社会だけでなく自分自身に向けられた言葉であったように私は思います。

自分自身の価値観、潜在する差別心と向き合い続けることで、恥でないものを真に理解することにつながっていきたいです。

— ばくも わたしも みんなが主役！！ —

— 横山文吾さんの場合 —

僕は食品製菓グループで長く作業を続けていて、最初のうちは同じ作業ばかりをしていました。でも、新しい事に挑戦して、出来る事がどんどん増えてきました。その中で今回はキャベツの干切りの様子を紹介します。上から順番にやっていくように表になっているので自分で確認しながら進めます。最初は何度も確認したけど、使い続けて慣れてきたのでスムーズに次の工程に進めます。

干切りは専用の機械を使います。使い方をしっかり覚えたら、誰でも安全に同じように干切りが出来ます。グループホームのみんなと食べるおかずで、お金をもらって作る商品だからゴミが入っていないか、汚れていないか気をつけます。水を入れてゴミがないかチェックです。機械を清潔にするために丁寧に拭くとこまでが「せんぎりする」作業です。最後まで自分で責任を持つことで自信にも繋がります。これからも頑張るぞ！



— 石原慎也さんの場合 —

僕は今、内職のグループで作業をしています。シールを貼ったり、細かい動作が必要な作業をすることは得意ではありません。でも、今では進んで取り組むことができる作業があります。それは、革製品10個を1組にして小さい輪ゴムでまとめる作業です。

10個まとめたものを片手で持ち、もう片方の手で小さな輪ゴムをかけるという作業は僕にとって難しい作業です。そこで、切り抜いた革製品を立てて入れる台を作ってもらいました。そうすることで、両手を使って、輪ゴムをかけることができるようになりました。

輪ゴムは1つ使えばいいけど、僕にはわかりづらく輪ゴムをたくさん使ってしまいます。それで、革製品の数を数える道具に輪ゴム1つ入れるケースを付け、ゴムを1つセットしてもらってから僕に回してもらうようになりました。これで、僕は間違えることなく、輪ゴム1つできれいに束ねることが出来るようになりました。今では、速く、正確に作業ができるようになって、僕の得意な作業になりました。自信もつきました。これからも新しい作業にもどんどんチャレンジしたいです。



ちいろば会では、2025年度から法人職員研修で「ハンセン病差別に学ぶ」をテーマに連続講座で学びを深めています。今後の講座に備え、7月18日(土)有志13名が長島愛生園に学習に行きました。

ちいろば園看護師 梅垣 千代子

長島愛生園から見た海は穏やかで、潮風も心地よく、思わず美しい景色だと感じました。しかし、その景色を日々眺めながら暮らしている入所者の方々は、どのような思いで見つめていたのだろうと考えたとき、自分の見方の浅さに気づきました。帰りたくても帰る場所がなく、家族にも自由に会えない、同じ人間でありながら、人として当たり前の暮らしさえ奪われた苦しみは、私には到底想像しきれものではありません。

なぜこのような悲しみや孤独が生み出されてしまったのかを考えさせられました。ハンセン病に対する誤った知識や過度な恐れが偏見を生み、長年続いた隔離政策によって、その偏見が社会に深く根付いてしまったのだと思います。治る病気であることが分かっても、その誤ったイメージは簡単には消えず、差別や偏見が今もなお残っている現実を知りました。だからこそ、歴史を学び、正しい知識を持ち続けることの大切さを改めて感じました。

語り部の中尾さんが「自分の意思で移住したと思うしかない。ハンセン病の歴史を多くの人に知ってもらいたい。そして長島愛生園をどういう形で残していくのか、それを見守るために語り部を続けている」と話された言葉が、とても印象に残っています。その言葉には、過去の苦しみを伝えるだけではなく、二度と同じ悲しみを繰り返してはならないという強い願いと、未来へ歴史を語り継いでいこうとする決意が込められているように感じました。今回、長島愛生園を訪問し、ハンセン病の歴史をより身近なものとして考えることができました。呂久長島大橋を実際に歩いて渡ったときに感じた、言葉では表せない切なさや、差別に苦しんだ方々への思いを忘れることはありません。これからも歴史を学び続け、正しい理解を持ち、差別や偏見に気づき、自分にできることを考え、行動していきたいと思っています。本当の人間回復は、私たち一人ひとりが過去を知り、未来へつないでいくことから始まるのだと感じました。



グループホーム職員 宮下 美和

先日、ハンセン病問題の研修として、療養所である長島愛生園の見学学習に参加しました。実際に目で見ると、ハンセン病患者やハンセン病回復者の心を感じ考えさせられるものでした。

ハンセン病患者は船で島に連れてこられました。栈橋を降りてすぐ消毒のお風呂に入れられ、持ち物も消毒されます。お金は逃亡防止のために園内通貨に替えられました。そして、ほとんどの方が家族に迷惑がかからないように本名を隠し園内名を使ったそうです。まるで園でしか存在できないかのよう。島の中では患者と職員の生活の場は完全に分けられていました。海が見える美しい島なのに、社会から拒絶された入所者にとっては辛く悲しみの島でしかなかったのかもしれない。

長島愛生園につながる橋はたった22mです。架け橋 長島・奈良を結ぶ会の方が「橋が出来るまでは入所者の方は心を開いてくれなかった」とおっしゃっていました。22mの橋はまさしく「人間回復の橋」だったと思います。

語り部の中尾さんのお話も聞かせてもらいました。92歳という高齢にもかかわらず語り部を続けているのは、「ここでの生活をみんなに知ってもらい、二度とこのような事が起こらないようできる限り伝えていきたい」という思いだからだそうです。

ハンセン病問題に限らず様々な偏見や差別が多くあります。それらをもっと多くの人に知ってもらい、みんなで解決できるよう私自身には何が出来るのかしっかり考えていかなければと強く思いました。

ちいろば まつり

9^{がつ}月12^{にち}日(土)^{どようび}

10:30~13:00



ゲーム

あてもの、おもちゃひき
などたのしい ゲームが
たくさん!



秋ちゃんバンド

みんなであうたを
うたって盛り上がりよう



屋台

かき氷、やきそば、
たこやきなどおいしい
屋台がたくさん



絵の本ひろば

『絵の本ひろば』を開催します。
○△□パズルもあります。



レザークラフトのワークショップ

色とりどりの革を
つかって
じぶんだけの小物
をつくろう。

※駐車場には限りがあります。
出来るだけ乗り合わせてお越し
ください。

お問い合わせ ちいろば園
電話：0745-72-1923
住所：三郷町勢野北5-6-14
※王寺駅までの送迎あります要予約

2025年度の主な事業報告

社会福祉法人 ちいろば会

<ちいろば園> (生活介護) 定員58名、現員52名 3月末現在 年間稼働日数254日

① 利用者の状況

登録者数52名

一日平均利用 46.4名 前年比 -1.9名、年間平均稼働率 79.9% 前年比 -3.3%

② 作業活動

作業活動による年間売上10,570,313円 前年比 +11.8% (+1,120,285円)

利用者平均工賃8,022円/月 前年比 +2,056円/月 40円/時

<ちいろば生活支援センター> (特定相談支援)

▼本事業所における計画相談については、当年度においても大きな変更はなく、引き続き本法人サービス利用者を中心に実施しています。具体的には、本法人サービス利用者54名、同町内で過去の本法人サービス利用者1名、同町内で必要性の高い利用者1名に対して、サービス等利用計画の作成を行っています。

▼多岐にわたるサービス利用者に係るサービス担当者会議については、各事業所における人手不足の影響により、関係者が一同に会するための日程調整が困難な状況が継続しています。

<にぬふあ星> (共同生活援助) 定員25名、現員 25名 3月末現在

- ・にぬふあ星 定員6名 — 現員6名 (隔週土日帰省 1名のみ通年利用)
- ・エンゼルハウス 定員5名 — 現員5名 (隔週土日帰省 1名のみ2月より通年利用)
- ・ユイマールⅡ 定員2名 — 現員2名 (1名週末帰省、1名通年利用)
- ・日之出荘 定員6名 — 現員6名 (隔週土日帰省)
- ・すみれ荘 定員6名 — 現員6名 (隔週土日帰省)

<苦情申立て>

◆計画相談支援について

申立者：利用者ご家族

内容：モニタリング時の面談と他事業所の紹介について

<虐待報告>

◆虐待報告とすべき事象は確認していないものの、年3回、虐待の芽チェック表において、不適切な支援の有無を確認して、改善策の検討を行っています。

◆権利擁護・身体拘束適正化委員会の開催状況

2025年6月12日、10月22日、2026年2月24日 年3回開催

<事故・ヒヤリ報告>

- ◆作業中の怪我 1件
- ◆利用者の所在不明 1件
- ◆利用者間のトラブル 1件
- ◆登園途上、職員と歩行中の怪我 1件

<施設設備整備ならびに改修等>

・旧シャワー室の改修工事

2025年6月施工

→ 排泄関連用品のストック庫ならびに車椅子利用者のロッカー室へ改修

2025年度計算書類 (一部抜粋)

第一号第一様式

法人単位資金収支計算書

(自) 2025 年 4 月 1 日 (至) 2026 年 3 月 31 日

社会福祉法人名 社会福祉法人ちいろば会

事業活動による収支	勘定科目	(単位:円)		
		予算(A)	決算(B)	差異(A)-(B)
事業活動による収入	就労支援事業収入	6,430,000	6,507,653	△ 77,653
	障害福祉サービス等事業収入	215,488,000	213,242,702	2,245,298
	経常経費寄附金収入	200,000	194,305	5,695
	受取利息配当金収入	406,000	401,797	4,203
	その他の収入	1,186,000	1,134,806	51,194
	事業活動収入計 (1)	223,710,000	221,481,263	2,228,737
	人件費支出	163,954,000	151,856,002	12,097,998
	事業費支出	18,541,000	17,937,430	603,570
	事務費支出	21,374,000	20,187,252	1,186,748
	就労支援事業支出	10,622,000	10,569,695	52,305
事業活動による支出	支払利息支出	184,000	176,311	7,689
	その他の支出	392,000	347,596	44,404
	事業活動支出計 (2)	215,067,000	201,074,286	13,992,714
	事業活動資金収支差額 (3)=(1)-(2)	8,643,000	20,406,977	△ 11,763,977
	施設整備等収入計 (4)	0	0	0
	設備資金借入金元金償還支出	2,004,000	2,004,000	0
	固定資産取得支出	900,000	869,000	31,000
	施設整備等支出計 (5)	2,904,000	2,873,000	31,000
	施設整備等資金収支差額 (6)=(4)-(5)	△ 2,904,000	△ 2,873,000	△ 31,000
	その他の活動収入計 (7)	0	0	0
その他の活動による収支	横立資産支出	161,000	66,258	94,742
	その他の活動支出計 (8)	161,000	66,258	94,742
	その他の活動資金収支差額 (9)=(7)-(8)	△ 161,000	△ 66,258	△ 94,742
	予備費支出 (10)	0	—	0
	当期資金収支差額合計 (11)=(3)+(6)+(9)-(10)	5,578,000	17,467,719	△ 11,889,719
	前期末支払資金残高 (12)	132,844,764	132,844,764	0
	当期末支払資金残高 (11)+(12)	138,422,764	150,312,483	△ 11,889,719

第二号第一様式

法人単位事業活動計算書

(自) 2025 年 4 月 1 日 (至) 2026 年 3 月 31 日

社会福祉法人名 社会福祉法人ちいろば会

事業活動による収支	勘定科目	(単位:円)		
		当年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A)-(B)
事業活動による収入	就労支援事業収益	6,507,653	6,078,778	428,875
	障害福祉サービス等事業収益	213,242,702	208,136,502	5,106,200
	経常経費寄附金収益	194,305	414,000	△ 219,695
	サービス活動収益計 (1)	219,944,660	214,629,280	5,315,380
	人件費	152,343,201	139,302,629	13,040,572
	事業費	17,937,430	17,629,269	308,161
	事務費	20,187,252	18,082,406	2,104,846
	就労支援事業費用	10,570,313	9,450,037	1,120,276
	減価償却費	13,277,526	13,377,568	△ 100,042
	国庫補助金等特別積立金取崩額	△ 3,487,323	△ 3,487,323	△ 0
事業活動による支出	サービス活動費用計 (2)	210,826,399	194,354,586	16,473,813
	サービス活動増減差額 (3)=(1)-(2)	9,118,261	20,274,694	△ 11,156,433
	受取利息配当金収益	401,797	70,999	330,798
	その他のサービス活動外収益	1,134,806	1,079,300	55,506
	サービス活動外収益計 (4)	1,536,603	1,150,299	386,304
	支払利息	176,311	162,978	13,333
	その他のサービス活動外費用	347,596	405,350	△ 57,754
	サービス活動外費用計 (5)	523,907	568,328	△ 44,421
	サービス活動外増減差額 (6)=(4)-(5)	1,012,696	581,971	430,725
	経常増減差額 (7)=(3)+(6)	10,128,957	20,856,665	△ 10,727,708
特別増減	特別収益計 (8)	0	0	0
	固定資産売却損・処分損	0	1	△ 1
	特別費用計 (9)	0	1	△ 1
	特別増減差額 (10)=(8)-(9)	0	△ 1	1
	当期活動増減差額 (11)=(7)+(10)	10,128,957	20,856,664	△ 10,727,707
	前期繰越活動増減差額 (12)	180,583,739	189,727,669	△ 9,143,930
	当期末繰越活動増減差額 (13)=(11)+(12)	190,712,696	210,584,333	△ 19,871,637
	基本金取崩額 (14)	0	0	0
	その他の積立金取崩額 (15)	0	0	0
	その他の積立金積立額 (16)	58,131	30,000,594	△ 29,942,463
繰越活動増減差額	次期繰越活動増減差額 (17)=(13)+(14)+(15)-(16)	190,654,565	180,583,739	10,070,826

第三号第一様式

法人単位貸借対照表
2026 年 3 月 31 日 現在

社会福祉法人名 社会福祉法人ちいろば会

(単位:円)

資 産 の 部				負 債 の 部			
	当年度末	前年度末	増 減		当年度末	前年度末	増 減
流動資産	164,748,625	145,320,977	19,427,648	流動負債	21,883,482	19,435,736	2,447,746
現金預金	128,879,778	111,126,279	17,753,499	事業未払金	14,251,279	12,291,858	1,959,421
事業未収金	34,438,180	33,000,952	1,437,228	1 年以内返済予定設備資金借入金	2,004,000	2,004,000	0
原材料	20,658	21,276	△ 618	預り金	45,933	3,573	42,360
立替金	72,799	5,589	67,210	職員預り金	118,272	159,506	△ 41,234
前払金	1,337,210	1,166,881	170,329	賞与引当金	5,463,998	4,976,799	487,199
固定資産	330,885,408	343,227,674	△ 12,342,266	固定負債	23,560,060	25,564,060	△ 2,004,000
基本財産	228,777,939	239,926,665	△ 11,148,726	設備資金借入金	7,976,000	9,980,000	△ 2,004,000
土地	55,507,479	55,507,479	0	退職給付引当金	15,584,060	15,584,060	0
建物	173,270,460	184,419,186	△ 11,148,726	負債の部合計	45,443,542	44,999,796	443,746
その他の固定資産	102,107,467	103,301,009	△ 1,193,542	純 資 産 の 部			
土地	25,443,071	25,443,071	0	基本金	143,697,930	143,697,930	0
建物	988,920	1,077,480	△ 88,560	国庫補助金等特別積立金	55,596,904	59,084,227	△ 3,487,323
構築物	1,402,243	1,617,891	△ 215,648	その他の積立金	60,241,090	60,182,959	58,131
機械及び装置	175,734	214,784	△ 39,050	工費変動積立金	124,569	124,569	0
車輦運搬具	7	7	0	人件費積立金	5,514,027	5,506,520	7,507
器具及び備品	2,277,942	3,077,649	△ 799,707	施設・設備整備積立金	54,602,494	54,551,870	50,624
権利	1,061,079	1,177,914	△ 116,835	次期繰越活動増減差額	190,654,565	180,583,739	10,070,826
工費変動積立資産	124,569	124,569	0	(うち当期活動増減差額)	10,128,957	20,856,664	△ 10,727,707
人件費積立資産	5,514,027	5,506,520	7,507	純資産の部合計	450,190,489	443,548,855	6,641,634
退職積立資産	10,507,381	10,499,254	8,127	負債及び純資産の部合計	495,634,031	488,548,651	7,085,380
施設・設備整備積立資産	54,602,494	54,551,870	50,624				
出資金	10,000	10,000	0				
資産の部合計	495,634,031	488,548,651	7,085,380				

※ 以上は、事業報告、計算書類とともに、簡略版、一部抜粋となります。

それぞれの詳細な報告は、ちいろば会ホームページ「情報公開」もしくは、WAMNET から閲覧いただけます。

☆後援会費・ちいろばだより年間購読料 (2026 年 4 月 1 日～2026 年 6 月 30 日)

篠原範子、梶川慶子、清水靖子、山川孝子、奈良人権部落解放研究所 天根俊治、西村好夫、谷野裕悟、平山恵理、小倉奈々、石原慎也、辰巳普宣、高見良平、岩崎和代、吉田陽亮、権利擁護支援センターなつぼし、不二門雅代、中田ひとみ、梅谷明子、富田久江、堀内俊文、山田援、黒川正通、岡山定男、松本健一、坂本友希、篠原希代子、鈴木莉子、廣野和子、福音幼稚園、長尾良子、光田邦二、前平正恭、梅野玲子、足立ひとみ、西田久美子、岡林千恵子、新谷晏平、本間結子、岡本啓子、中園大三郎、西村恭子、中野みち、齊藤総一郎、阿波宏晃、藤田伸子、本田佳子、濱野秀代、西垣真理子、匿名、中島佳代子、中川朋子、石川徹、井上真理子、木下好司、松村國隆・明子、吉井紗英、西村周也、梶原拓馬、吉岡佳菜、原哲也、藤原智久、森川佳紀、東応成、松本敬子、村上太一、胡内まさみ、太田明夫、清水秀高、建石より子、増田広正、村本ビルテクノ株式会社前田勇次、谷口英子、窪田義廣、米田守、和田泰子、由浅昌江、堀 求基、大野美子、瞿曇留美、菅野努、高橋沙耶加、辰巳浩規、新宮由士、奥田陽子、河野輝士、富田忠一、松岡絵里奈、小坂真由美、横山文吾、藤本千絵、佐藤菜月、笠井草太

以上 敬称は略させていただきます

※ ちいろばだよりの配送停止をご希望の方は、ちいろば園までご連絡ください。

二〇〇〇年十二月十二日

第三種郵便物承認

毎月(一・二・三・四・五・六・七・八の日) 発行

1号案内

知って、学んで、いっしょに考えよう！
いまも残る ハンセン病問題！

第6回 架け橋 交流・講演会



と き：2026年12月6日(日)
 受付12:30 開会13:00～16:00
ばしょ：三郷町文化センター

「架け橋 長島・奈良を結ぶ会」と本法人の
 共催で、左記の「架け橋 交流・講演会」を
 2026年12月6日(日) 三郷町文化センター
 で開催します。
 当日は、ハンセン病回復者のお話やご家族の
 お話、作品展も 12月3日～6日まで開催し
 ます！ 詳しくはちいろば園ホームページ
 でご確認ください。

～ちいろばクリスマスコンサート2026開催のお知らせ～

2026年12月12日(土) 今年も、恒例のクリスマスコンサートを開催します。

年末の忙しい毎日ですが、本格的なバロック音楽で癒しのひと時を楽しみませんか？ 詳細は決まり次第、ちいろば会ホームページでご案内させていただきます。11月発行のちいろばだよりでもご案内しますが、直前の案内となるためホームページでご確認のうえ、早めのご予約をお願いします。限定60席での開催です。

公益財団法人 JKA
補助事業完了のお知らせ



この度、ちいろば会では、2026年度の競輪の補助を受けて、利用者の送迎に使用する福祉車両(特別装備なし)の整備事業を完了しました。補助事業に感謝し、報告させていただきます。

21年乗りつけドアの締めもおかしかった車両から最新のハイブリット車になり、利用者、職員ともに大喜びです。

補助金額 250万円



KSKS ちいろばだより

編集人／ ちいろば会後援会

年4回 頒価 50 円

連絡先／ 奈良県生駒郡三郷町勢野北 5-6-14

TEL:0745-72-1923 FAX:0745-72-1924

ホームページ: <https://www.chiiroba.or.jp>

発行人／ 関西障害者定期刊行物協会

大阪市天王寺区真田山町 2-2 東興ビル4F